

第133回リニアドライブ技術委員会議事録（案）

日時：平成25年2月8日(金) 13:30～16:30

場所：JR東海品川ビルA棟会議室

出席者：委員長 北野（JR東海）

副委員長 水野（信州大）

委員 上田（東芝）、海老原（IEEJプロ）、大橋（関西大）、小林（三菱電機）、古関（東京大）、白石（安川電機）、長谷川（鉄道総研）、平田（大阪大）
前田（シンフォニアテクノロジー）、森下（工学院大）、矢野（産総研）
脇若（信州大）

幹事 村井（JR東海）、鳥居（東京都市大）

幹事補佐 矢島（SMC）（記）

（17名）

提出資料

- 133-1 第132回リニアドライブ技術委員会議事録（案）（矢島幹事補佐）
- 133-2 リニアドライブ技術委員会名簿（矢島幹事補佐）
- 133-3 第109回（H24年度第3回）産業応用部門研究調査運営委員会メモ（北野委員長）
- 133-4 H24年 本部表彰・部門表彰（北野委員長）
- 133-5 研究調査運営委員会・技術委員会主催の国際集会の調査（北野委員長）
- 133-6 電気学会 大会・研究会・行事 原稿の書き方（矢島幹事補佐）
- 133-7 電気学会 著作権譲渡書（矢島幹事補佐）
- 133-8 リニアドライブ技術関連カレンダー（矢島幹事補佐）
- 133-9 平成25年電気学会産業応用部門大会シンポジウム提案用紙（大橋委員）
- 133-10 リニアドライブ研究会（2月）プログラム（小林委員）
- 133-11 産業用薄型リニアモータ：カードモータ®（矢島幹事補佐）
- 133-12 リニアドライブ研究会（3月）プログラム（上田委員）
- 133-13 産業用リニアドライブ技術の応用展開調査専門委員会（MEL）活動報告（小林委員）
- 133-14 多自由度新世代アクチュエータの性能評価調査専門委員会（MDD）活動報告（上田委員）
- 133-15 第5回 産業用リニアドライブ技術の応用展開調査専門委員会 議事録（案）（小林委員）
- 133-16 第7回 環境調和型磁気支持応用技術の体系化調査専門委員会 議事録（大橋委員）
- 133-17 第8回 環境調和型磁気支持応用技術の体系化調査専門委員会 議事録（大橋委員）
- 133-18 第5回 多自由度新世代アクチュエータの性能評価調査専門委員会 議事録（上田委員）
- 133-19 SERO SYSTEM 2013 未来を拓くサーボシステム（小林委員）

議事

1. 議事録確認

資料133-1を基に、矢島幹事補佐から第132回委員会の議事録が確認され、承認された。

2. 報告事項

2.1 資料133-2を基に、矢島幹事補佐から、LD技委の名簿の確認があった。

2.2 資料133-3を基に、北野委員長から12月10日に開催された第109回（H24年度第3回）産業応用部門研究調査運営委員会について説明がされた。委員会の統廃合や、他の技術委員会の研究会の開催や剰余金の使い方について説明があった。

2.3 資料133-4を基に、北野委員長から本部表彰および部門表彰について説明があった。LD技委からは、本部表彰：Ariff Zaini氏（大阪大）、部門表彰：朝間淳一氏（静岡大）、谷内慎太郎（信州大）、吉澤佳祐（鉄道総研）が受賞。受賞者の地元でLD研究会などを行った際、それぞれ授賞式を行う。

2.4 資料133-9を基に、大橋委員から8月に開催される産業応用部門大会シンポジウムで発表する内容が説明された。本提出用紙は既に提出し、採択済み（8月30日を希望中）。

2.5 資料133-10を基に、小林委員から2月に開催されるLD研究会のプログラムが説明された。発表件数は21件。

2.6 資料133-11を基に、上田委員から3月に開催されたLD研究会のプログラムが説明された。発表件数は10件。

2.7 資料133-19を基に、小林委員から日本電機工業会（JEMA）制作のサーボモータの応用と変遷につ

いて説明があった。

- 2.8 北野委員長から、次年度発足を検討している LD 医用応用調査専門委員会について進捗がないことが説明された。

3. 審議事項

- 3.1 資料 133-5 を基に、研究調査運営委員会からの研究調査運営委員会・技術委員会主催の国際集会とその剰余金についてのアンケートが説明された。LDIA の剰余金は従来どおり管理委員会で管理して行くことが確認された。
- 3.2 資料 133-8 を基に、矢島幹事補佐から、リニアドライブ技術関連カレンダーの説明があった。LD 技委の開催日などが確認された。また、研究会について、2・3 月は大学からの発表が難しいことや、他技術委員会と合同で交流を図るなどの意見があり、下記のように進めることが決定した。
- ・2013 年 8 月 LD 研 近畿地方で開催（平田委員）
 - ・2014 年 2 月 LD 研→2014 年 6 月に MAG と合同で信州大学で開催（担当：MEL 委）
 - ・2014 年 11 月 LD 研 MAG と合同で金沢で開催（担当：脇若委員）
- 3.3 資料 133-8 の際、2013 年 5 月に開催される第 25 回「電磁力関連のダイナミクス (SEDA25)」シンポジウムの前稿集について、CD-ROM のみの是非が審議された。「前例とせずトライアルとして今回限りであれば可」と確認された。
- 3.4 次年度発足を検討している LD 解析技術調査専門委員会について審議された。藤崎先生（豊田高専）を委員長とし、電磁アクチュエータの解析・材料を考慮した特性評価（案）をお願いすることになった。古関委員から藤崎先生に打診し、内容・テーマは藤崎先生に一任する。また、調査専門委員会ではなく、協同研究委員会でも可。
- 3.5 資料 133-11 を基に、矢島幹事補佐から、2 月に発表する LD 研究会の資料について説明された。研究会の活性化を目的とし、前委員会（第 132 回）で承認されたように、発表スライドを並べた原稿としている。「企業からの発表をしやすくして研究会の間口を広くする意味でこのような形式の資料でもよい」という意見がある一方、再現できるように詳細な内容の原稿を書くのも大事、研究会資料を販売しているという意見もあった。本スタイルの原稿は企業からの発表に限り、担当する調査専門委員会委員長の判断で許可することとなった。

4. 各調査専門委員会活動報告

資料 133-13～資料 133-18 を用いて、各調査専門委員会から活動報告があった。

以上